

平成 29 年度(第 61 回)  
岩手県教育研究発表会発表資料

特別活動／キャリア教育分科会

【研究主題】 集団の一員として目的意識をもち、自主的に活動する子どもを育てる特別活動  
【副 題】 「決める」段階における効果的な指導のあり方の探求

平成 30 年 2 月 9 日  
洋野町教育委員会  
洋野町立種市小学校  
田 村 直 樹

## 目次

### I 研究の概要

#### 1 研究の理論

(1) 研究主題	1
(2) 主題設定の理由	1
(3) 研究内容	2
(4) めざす児童像	2
(5) 研究方法	3
(6) 研究の検証方法	3
(7) 研究の全体構造図	4

#### 2 研究主題に対する基本的な考え方

(1) 研究主題，副主題について	5
(2) 基本的指導過程	5
(3) 学級活動(1)における，各学年の指導のめやす	6
(4) 本校の学級活動を支えるもの	6

#### 3 研究の実際

《学級活動(1)について》	7
《学級活動(2)について》	10

### II 研究の成果と課題

1 諸調査の結果から	13
2 授業後のふりかえりの状況から	16
3 成果と課題	17

補足資料① 「学級会ハンドブック」

補足資料② 「学級活動(2)ハンドブック」

# I 研究の概要

## 1 研究の理論

### (1) 研究主題

〔主題〕 集団の一員として目的意識をもち、自主的に活動する子どもを育てる特別活動  
〔副題〕 「決める」段階における効果的な指導のあり方の探求

### (2) 主題設定の理由

#### ①今日の課題から

学習指導要領の特別活動の目標には、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」と示されている。この目標は、豊かな人間性や社会性、自律性を備えた児童を育てることを目指したものである。そこで、望ましい集団活動を通してよりよい人間関係を築くとともに、集団の一員として自己をよりよく生かすことができるようにしたいと考えた。

#### ②学校教育目標の具現化から

本校では、学校教育目標に「心身ともに健康でたくましく生きる心豊かな児童の育成」と掲げている。この目標は全ての教育活動において「自己肯定感」と「コミュニケーション能力」の育成を通して具現化に努めるものである。そこで、特別活動に重点を置き、話し合い活動や実践を通して自己肯定感やコミュニケーション能力を育む方法を追求していくことは、学校教育目標を具現化していくうえで、重要な要素であると考えた。

項目	H28 1回目	H28 2回目	H29 1回目
学級会で話し合ったことが正しく(楽しく)行われている	89%	90%	91%
友だちの意見をしっかり聞いている	94%	94%	96%
進んで自分の意見を言っている	65%	62%	65%
学級会が好きだ	77%	71%	73%

#### ③児童の実態から

これは、本校が独自に行っている学級活動に関する児童の意識調査の結果である。

結果を見ると、本校の多くの児童は、話し合って決めたことを正しく・楽しく行っていることがわかる。また、友だちの意見をしっかり聞いている児童が多いことも分かる。

一方で、「進んで自分の意見を言っている」は低い割合のところを推移していたり、「学級会が好きだ」の割合は変化があまり見られなかったりという課題が見られる。

このことから、本校の児童はやや主体性に欠けるところがあることがわかる。

したがって、主体的に課題に取り組めるような指導を工夫する必要がある。

#### ④研究の経過から

昨年度、本校では「ふり返りの活用」を通して、実践を意識したよりよい話し合い活動のあり方について研究してきた。ふり返りの観点を明確にすることにより、児童が主体的に話し合い、協働的に実践を行うための指導のあり方を探ってきた。

昨年度行った2度の児童の意識調査では、「学級会で決めたことを協力して取り組んでいる」や「学級会で話し合われたことが正しく実行されている」の項目で肯定的意見が増加しており、研究の取り組みの成果が少しずつ現れてきている。

一方で「学級会は好きだ」や「進んで自分の意見を言っている」の項目で肯定的意見が減少している。

そこで、自分が発言したことが生かされて集団決定や自己決定が行われることで、「もっと発言したい」という思いを育てることができるのではないかと考えた。

### (3) 研究内容

#### ①学級活動(1)について

ア. 児童がよりよい話し合い活動を行い、納得して集団決定や合意形成をすることができるための教師の指導・助言のあり方

イ. 実践までを見通した集団決定のあり方

#### ②学級活動(2)について

ア. 定着や習慣化までを見通した、よりよい意思決定を図れるための教師の指導・助言のあり方

イ. 専門性を有する教職員の活用の仕方

### (4) めざす児童像

#### ①学級活動(1)について

目指す児童像 (全体像)	自分の問題に対して主体的・協働的に関わり、楽しく豊かな生活を目指すことができる児童		
	低学年	中学年	高学年
計画委員 (議長団)	教師の助言を受けながら、 <u>話し合い活動の基本的な進め方を理解して進行することができる児童</u>	教師の助言を受けながら、 <u>実践に向けての活動計画を作成し、話し合いを進行することができる児童</u>	<u>児童自らが活動計画を作成し、効率的な話し合いの進め方を工夫して進行することができる児童</u>
学級全体	学級の問題に目を向けて、それを解決するためにはどうすればいいかを進んで考え、 <u>みんなで決めたことをみんなで実践することができる児童</u>	自分たちの生活をふり返り、学級や学年・学団の問題に気づき、それを解決するためにはどうすればいいかを進んで考え、 <u>自分もよくみんなもよいものとなるよう合意形成を図り、</u>	自分たちの生活をふり返り、学級や学年・学団のみならず学校の問題に気づき、どうすればいいかを意欲的かつ具体的に考え、 <u>創意工夫を生かして合意形成を図り、次の活動につながる実践する</u>

	<u>協働して実践に取り組む</u> ことができる児童	ことができる児童
--	--------------------------------	----------

② 学級活動(2)について

目指す児童像 (全体像)	自分の問題に対して主体的・協働的に関わり，楽しく豊かな生活を目指すことができる児童		
	低学年	中学年	高学年
目指す児童像 (各学団)	自己の身の回りの問題に目を向けて，それを解決するためにどうすればいいかをみんなと協力しながら進んで考え，判断し，自分で決めたことに取り組む児童	自己の生活上の問題に気づき，それを解決するためにどうすればいいかをみんなと協力しながら進んで考え，判断し，自分で決めたことに意欲的に取り組む児童	自己の生活の充実と向上に関わる問題に気づき，それを解決するためにどうすればいいかをみんなと協力しながら具体的に考え，判断し，自分で決めたことに自主的に取り組む児童

**(5) 研究方法**

①理論研究

各種研究会への参加，先進校視察，文献資料の学習を通して理論面の充実を図る。

②授業実践

研究授業を行い，研究の方向性や成果と課題を確認しながら進めていく。

**(6) 研究の検証方法**

①各種調査や諸検査の結果から（Q-Uや校内アンケートなど）

②授業後の児童のふり返りカードやがんばりカードから

(7) 研究の全体構造図

《学校教育目標（子ども像）》

今日の  
課題

心身ともに健康でたくましく生きる心豊かな子どもの育成  
 ①進んで学習する子ども 【頭が元気（知）】  
 ②思いやりのある子ども 【心が元気（徳）】  
 ③進んで心と体をきたえる子ども 【体が元気（体）】

児童の  
実態

《めざす授業の姿（全教科共通の授業）》

- ①精一杯学習をさせてくれる授業（動く楽しさ）
- ②技や力を伸ばしてくれる授業（伸びる楽しさ）
- ③友達と仲よく学習させてくれる授業（集う楽しさ）
- ④何か新しく発見させてくれる授業（わかる楽しさ）

《重点研究：学級活動》

【主 題】 「集団の一員として目的意識をもち、自主的に活動する子どもを育てる特別活動」  
 【副主題】 「決める」段階における効果的な指導のあり方の探求

学級活動を通して、育てる子どもの姿

〔学級活動（１）〕

学校や学年・学団，学級の課題に対して自主的に関わり，楽しく豊かな生活を目指すことができる児童

〔学級活動（２）〕

自分の課題に対して正しく向き合い，より良い自己の実現を目指す児童

研究内容

〔学級活動（１）〕

- ア．児童がよりよい話し合い活動を行い，納得して集団決定や合意形成をすることができるための教師の指導・助言のあり方
- イ．実践までを見通した集団決定のあり方

〔学級活動（２）〕

- ア．定着や習慣化までを見通した，よりよい意思決定を図れるための教師の指導・助言のあり方
- イ．専門性を有する教職員の活用の仕方

重点研究を支えるもの・基盤となるもの

授業改善＝《「種小わかる授業」モデル  
『得意な子が満足し、苦手な子がわかる授業』》

※クラスワイドな支援とユニバーサルデザインの視点

- ①「焦点化（シンプル）」と「視覚化（ビジュアル）」，「共有化（シェア）」が位置付いた授業
  - ・身につけさせたい力（ゴール）を明確にする場面〔見通し〕
  - ・一人ひとりの学びの保障の場面〔課題解決〕
  - ・子どもが身に付けた力を振り返る場面〔ふり返り〕
- ②まず「参加（活動）」させ、次に「理解（できる）」そして、「習得（わかる）」、最後に「活用（使う）」

学級経営の充実

- ・個と集団がいきいきと過ごす学級
- ・けじめやがまん（ルール）と親和的人間関係（リレーション）がある学級
- ・どの子どもも認められ、居場所や役割がある学級

主な日常指導

- ・朝読書
- ・学びのルール「種小スタンダード」
- ・授業と連動した家庭学習
- ・かがやきタイムと「脳力の日」

## 2 研究主題に対する基本的な考え方

### (1) 研究主題, 副主題について

#### ① 「集団の一員として目的意識をもつ」について

「集団の一員として目的意識をもつ」とは、集団の一員であることを理解し、集団の生活の充実・向上(=目的)に向けて自分の考えをもつことである。

#### ② 「自主的に活動する」について

「自主的に活動する」とは、集団生活の充実・向上を目指し、実践可能な方法について考えながら着実に遂行しようとする自らの意思で動くことである。

#### ③ 「『決める』段階」について

「『決める』段階」とは、学級活動(1)では集団決定に、学級活動(2)では個々の意思決定に向かう場面のことである。

学級活動(1)は「比べ合いの後半からまとめる」段階、学級活動(2)は「見付けるの後半から決める」段階である。

また、ここでの「決める」とは、学級活動(1)については児童全員が納得した集団決定、学級活動(2)では、自己実現可能な意思決定のことである。

より良い合意形成のために、提案理由に即した話し合いを行うことや、キーワードを意識させること、合体案、譲る、優先順位、盛り合わせなどを、学年や議題に応じて適切に組み合わせる事が有効である。ここで言う合意形成とは「もろ手を挙げて賛成」だけを目指すということではなく、「概ね賛成」や「消極的賛成」なども含むものとして捉えている。

### (2) 基本的指導過程

学級活動(1)	指導過程	特色	留意点など	キーワード
	出し合う	個々が考えた案や内容を自由に発表し合う場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員をしっかり参加させる。</li> <li>・学年や内容によってはこの場면을省き、「比べ合う」時間を多くとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを自分の言葉で表現</li> </ul>
	比べ合う	出された多くの案や内容を、比較しながら提案理由に沿って内容を吟味していく場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成→反対→改善策という流れで比較していく。</li> <li>・賛成、反対意見は提案理由に沿って言わせる。</li> <li>・少数意見をできるだけ生かすように努める。</li> <li>・低学年では「何をするか」を、高学年では「どのようにするか」が、話し合いの基本となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かり合う</li> <li>・聞き合う</li> </ul>
	決める	合意形成を図り、集団決定をする場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が納得のいく「集団決定」を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの収束</li> <li>・合意形成</li> </ul>
	事後(実践化)	集団決定したことを、実践する場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案理由に沿った活動をする。</li> <li>・高学年は、計画委員会を中心にしながら、みんなで準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的の達成</li> </ul>

学級活動(2)	指導過程	特 色	留意点など	キーワード
	つかむ	問題の焦点化を図り、児童それぞれが自分の課題をつかむ場面〔課題把握〕	・事前に児童の実態把握をしっかりと行う。 ・児童の実態を表などにして提示し、児童が課題をつかみやすいようにする。	・自己内対話
	さぐる	問題の原因について追求する場面〔原因追及〕	・原因を深く追求するために専門性を要する教職員を活用し、児童の「わかっている」の質の深化を促す。	・共 感
	見付ける	解決方法をみんなで話し合っ て考える場面〔解決方法〕	・より良い意思決定につなげられるように、全員で話し合いながら解決方法を探らせる。 ・グループ学習を行う場合は、家庭環境等を考慮したグループ 編成とする。	・正しい知識の 理解と習得
	決める	具体的な個人目標(解決方法) を意思決定する場面 〔意思決定・行動選択〕	・「見付ける」段階で出された解決方法から児童に合った解決方法を意思決定させる。 ・具体的かつ実践可能な解決方法を決定させる。	・達成感 ・心地よさ
事後 (実践化)	意思決定したことを実践する 場面。〔実践化・定着化〕	・家庭や地域からの協力が不可欠。	・定着化	

### (3)学級活動(1)における、各学年の指導のめやす(基本線)

場面や役割、係など	低学年	中学年	高学年	留意点
話し合う議題内容	「何をするか」	「どのようにするか」		
話し合いの意見数	2つ以内	3～4つ		
議 長 団	教師主導で進める	教師と一緒に進める	児童にある程度 任 せる	過重負担と放 任に留意
計 画 委 員 会	先生が主導して、学級 会シートを作成	先生と一緒に、学級会シ ートを作成	児童にほとんどを任 せる	過重負担と放 任に留意
合 意 形 成	・友達の意見をよく聞け る ・自分の意見を言える	・異なる意見でも受け入 れられる ・理由をつけて 意見が 言える	・自分の言葉で 建設 的な意見が 言える 多様な意見の良さを 生かせる	

### (4)本校の学級活動を支えるもの

#### ①学級経営の充実

- ・個と集団がいきいきと過ごす学級



- ・けじめやがまん（ルール）と親和的人間関係（リレーション）がある学級
- ・どの子も認められ、居場所や役割がある学級

②授業者の姿勢 ～明るく前向きで信頼される教師～

- ・子ども理解に努め、誠意をもって接する愛情（ある）あふれる教師
- ・研修に努め、創意工夫して実践する教師
- ・学校経営に主体的に参画し、誠実に協働する教師
- ・保護者や地域社会と積極的に連携し、信頼される教師

※「わかるまで、できるまでしっかり教える種小の先生」

③授業改善と日常指導の充実

- ・「種小わかる授業」モデル…『得意な子が満足し、苦手な子がわかる授業』
- ・朝読書やかがやきタイム、脳力の日
- ・学びのルール「種小スタンダード」
- ・授業と連動した家庭学習

### 3 研究の実際

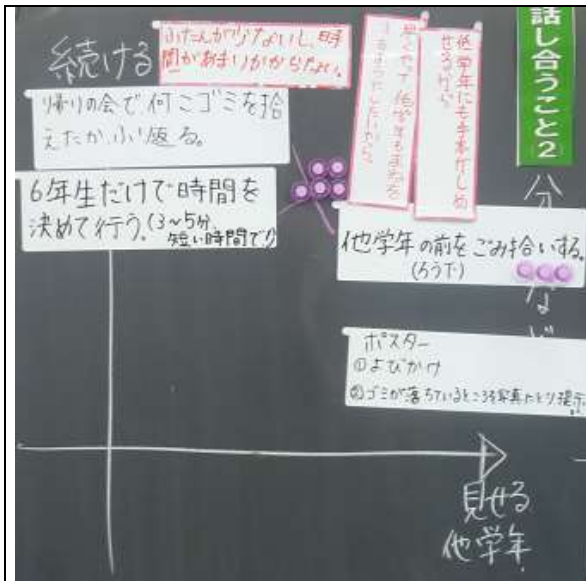
#### ＜学級活動(1)について＞

#### (1) 納得して集団決定や合意形成をすることができるための教師の指導や助言について

##### ①「キーワード(提案理由)に戻りましょう」・・・2年2組の実践より

<p><b>議 題</b> 「お楽しみ会でどんなクイズをだすかきめよう」</p> <p><b>提案理由</b> ① 1 学きにがんばったおいおいをしたいから・・・「楽しく」          ② 友だちのことをさらにしりたいから・・・「知って」          ③ 2 学きもきょうりよくしていきたいから・・・「きょうりよくして」          ※鍵かっこ内は提案理由のキーワード</p> <p><b>授業の実際</b> （話し合いの終盤で意見が決まらない場面で）          先生：キーワードに戻るよ。キーワードはいくつある？          児童：「友だちクイズ」はキーワードが二つしかない。          児童：「一学期やったことクイズ」とくっつければ三つのキーワードがそろろう。          先生：みなさん、この二つの意見をくっつけていいですか？</p> <p><b>〈成 果〉</b>          ・提案理由をキーワードにすることで、児童たちが提案理由を意識して話し合うことができる。          ・キーワードに戻って話し合いをさせることで、提案理由に沿った集団決定をすることができる。</p>
--

## ②板書を利用した指導助言・・・6年1組の実践より



議題 「よい伝統(ごみひろい)をどのように残すか考えよう」

提案理由のキーワード

- ①お手本を見せる ②続けること

授業の実際

(集団決定ができない状況の中で、教師が黒板に縦軸に「続ける」、横軸に「見せる」というキーワードをつけたグラフを書き、そこに意見を入れていった。右上にある意見が、二つのキーワードを満たしていることになる。このグラフを見せながら)

先生：今日は「続ける」ことも「見せる」こと

も大事にしたい。どうやったら決められそうですか。

児童：「他学年の前をゴミ拾いする」がいい。見せられるし、短い時間なら続けられる。

児童：低学年の前でやると、低学年もゴミ拾いが習慣付くかもしれない。

〈成果〉

- ・キーワードを明確に意識させることができた。
- ・「グラフの位置を少しでも上げるためにどうすればいいか」という、話し合いの焦点化できた。
- ・グラフの出現で、論点が明確になったことで話し合いが活発になった。

〈課題〉

- ・グラフがわかりやす過ぎて、話し合いが十分でないまま、安易に結論にまで進んでしまった。
- ・事前にまたは学級会の始めにグラフを出した方がキーワードを意識した話し合いになるのではないか。

## ③可視化された板書の工夫について

ア. 比べ合いを三つに分ける



上段には児童たちから出された意見を配置する。その下を「賛成意見」「心配な点」「改善策」の三つに黒板を分けた。

〈成果〉

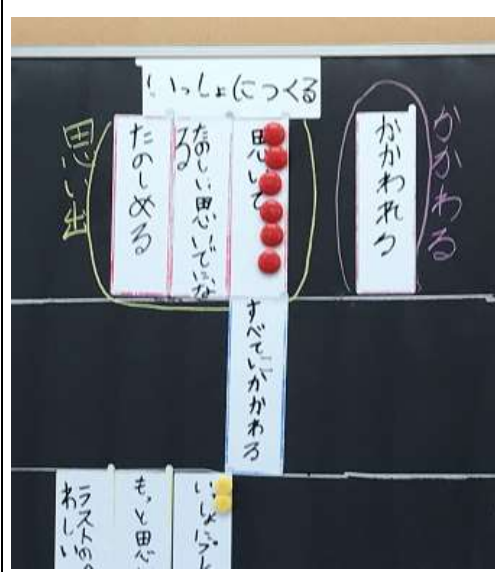
- ・論点が整理され児童が話し合いの見通しをもつことができた。
- ・一つの意見に対して賛成の立場で心配な点も出すことができた。
- ・心配な点を出すことで、どうすればよりよい

い意見となるかの改善策を出しやすくなった。

〈課題〉

- ・どの意見も改善案が出されることで、意見の絞り込みが困難になる場合があった。

## イ. 賛成意見をキーワード(提案理由)ごとに分類する



①の板書にさらに工夫改善を加えた。

まず賛成意見を出させる。その出された賛成意見をキーワード(提案理由)ごとに分類して、キーワードを黒板に明記した。

### 〈成 果〉

- ・提案理由に沿った意見かどうかが一目でわかる板書となった。
- ・足りないキーワードを補うための改善策を出すことができる板書となった。

### 〈課 題〉

- ・提案理由に沿っていることが明確すぎて、提案理由に沿っていない意見を扱いつらくなる。

## ④抽出児童について

「集団決定」を図る、学級活動(1)では、ともすれば個が埋没してしまうことも心配される。個々のしっかりとした意思決定と行動選択がないと、より良い「集団決定」には至らないので、本校では例えば「発言力があり人の意見も柔軟に聞ける児童群」と「自分の考えをなかなか持てない児童群」、「周囲の意見の良さに気づかず、自分の意見をなかなか曲げられない児童群」といったような児童群に分けて、授業を構成・進行している。

### 〈成 果〉

- ・抽出児童を授業の各場面で意図的意識的に指導や支援、活用する事ができたことで、「決める」がスムーズになるだけでなく、深く強い合意形成にも結び付いている。
- ・授業における「ミスマッチ」が解消し、より効果的な話し合い活動が可能となってきた。

### 〈課 題〉

- ・「決める」ために、キーとなる児童の選考と活用と学年や議題内容によつての活用の仕方。

## (2) 実践までを見通した集団決定のあり方

### ①合意形成が図られるまで決定しない

児童が決定事項に納得しない限り、意欲的に実践(決まったこと)に取り組むことは難しい。納得するまで集団決定はしない。

集団決定は、全員が納得できることを基本とする。もし、出された案を否決する場合は必ず児童全員からの了承を得る事が基本である。

### 〈成 果〉

- ・少数意見も丁寧に扱ったり、発言できない児童にも確認をとったりすることで、自分の意見は決して見捨てられているわけではないという思いを児童にもたせることができる。
- ・学級への所属感や参画意識をもたせる事ができる。

〈課題〉

・時間内に集団決定するためには、提案理由に立ち返るタイミングや収束に向かわせるための、助言など工夫が必要である。

②折り合いのつけ方を教える

意欲的に実践に取り組むためには、児童が集団決定に納得する必要がある。多様な意見を収束し、集団決定させるためには、折り合いをつけさせる必要がある。

折り合いの方法として、意見を取り下げる、譲る、合体案や改善案を出すなどを具体的に教えていく事で、自分たちでより良い折り合いのつけ方を選択できるようにさせる。

〈成果〉

・折り合いのつけ方を学ぶことで、互いの意見の良さを認め合ったり、評価したりする姿勢がみられるようになった。

〈課題〉

・折り合いをつけることが目的となってしまう、十分な比べ合いをしないで合体案を出すための話し合いとなる危険性がある。

〈学級活動(2)について〉

(1) 定着や習慣化までを見通した意思決定をするための教師の指導や助言のあり方について

①切り返しの発問をする・・・5年1組の実践より

題 材 「健康のもと よい生活習慣—睡眠の大切さ—」

ね ら い 生活習慣(睡眠)が健康と深く関連していることを理解し、自分の生活習慣の課題を踏まえて、よりよい生活習慣の形成に向けて自分の目標を考えることができる。

授業の実際 先生：解決方法を教えてください。

児童：宿題をやってから遊ぶ。

先生：やればいいことは知ってるんだよね。もう少し工夫できないかな？

児童：計画的に宿題をやるためにテレビを消す。

〈成果〉

・切り返しの発問を行うことで、児童の解決方法が具体的になっていく。  
・事前のアンケートなどから、個々の状況をしっかりと把握しての授業展開は、特に指導が必要な児童をしっかりと見取ることもできた。

〈課題〉

・一人一人の実態に対応しようとする、時間がかかってしまう。事前アンケートやグループ学習の一層の工夫が必要である。

②友だちの考えを聞いて、新たな考えに至る・・・1年1組の実践より

題 材 「めざせ きゅうしょくピカ1」

ね ら い 残さず食べるためには、食べる順番も大切であることを理解し、よりよい食習慣の形成に向けて自分の給食の食べ方について目標を考えることができる。

授業の実際 先生：どういう順番で給食を食べますか？

児童：やさい→ぎゅうにゅう→ごはん→おかず→おつゆ

先生：どうして野菜を最初にしたの？

児童：野菜が大嫌いだから。

先生：野菜が苦手じゃなくても野菜を最初にしている人は？

児童：野菜が好きだから。

先生：いろんな考えの人がいますね。友だちの考えを聞いて、もう一度自分はどうするか決めましょう。

#### 〈成 果〉

・友だちの意見を聞くことで、選択の幅が広がりより自分に合った決定ができる児童が増えてきた。

#### 〈課 題〉

・家庭との連携を含んだ、事後指導の在り方について更に研究を進める必要がある。

### ③抽出児童について

意思決定と行動選択を通して「実践化」を図る、学級活動（２）では、先ず個々の実態の把握がされなければいけません。本校では例えば「（正しいことが）わからないために、できなかった（しなかった）児童群」と「正しくわからなかったために、できなかった（しなかった）児童群」、  
「正しくわかっていても、やらない（やろうとしない）児童群」といったような児童群に分けて、授業を構成・進行している。

#### 〈成 果〉

- ・抽出児童を授業の各場面で意図的意識的に指導や支援、活用する事ができたことで、個々にふさわしい意思決定と行動選択となってきた。
- ・自分の生活をコントロールしようとする児童も出始めてきている。
- ・授業における「ミスマッチ」が解消し、より効果的な授業が可能となってきた。

#### 〈課 題〉

・個に応じた事後指導の効果的な進め方。

## (2) 専門性を有する教職員の活用の仕方

### ①「みなさん、よく知っているんだけど・・・」・・・5年1組の実践より

題 材 「健康のもと よい生活習慣—睡眠の大切さ—」

ね ら い 生活習慣(睡眠)が健康と深く関連していることを理解し、自分の生活習慣の課題を踏まえて、よりよい生活習慣の形成に向けて自分の目標を考えることができる。

授業の実際 担 任：睡眠をしっかりするとどんないいことがある？

児 童：成長する。1日中元気でいられる。集中力が続く。

担 任：身長だけではなく、骨や臓器も成長するんだよね。ここで、関先生(養護教諭)からも詳しく教わります。

養護教諭：みなさん、よく知っているんだけど、さらに教えますね。この言葉  
(「体内時計」という言葉を見せながら)を知っていますか・・・

～ここから睡眠と体内時計について説明～

養護教諭：寝ている間に育つのは何が出ているからですか？

児 童：成長ホルモン。

養護教諭：たくさん出る時間は、9時から夜中の2時です。そして高学年のみなさんはどれくらいの睡眠時間が必要か知っていますか。

児 童：9時間。

養護教諭：キーワードは「9」です。

#### 〈成 果〉

- ・児童は睡眠について、断片的知識や伝聞だけでわかっているつもりになっている。そのわかっているつもりを、専門性を有する教職員に「わかった」に変えてもらうことができる。
- ・専門性を有する教職員の話聞くことで、実践への意欲につなげられる。
- ・専門性を有する教職員は、「さぐる」段階と「決める」段階での活用が特に有効である。

#### 〈課 題〉

授業のねらいと説明を整合させ、説明を短く簡単にしなければ、ねらいからずれてしまう。

## II 研究の成果と課題

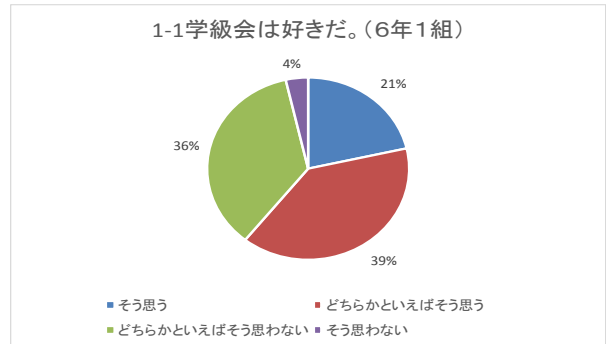
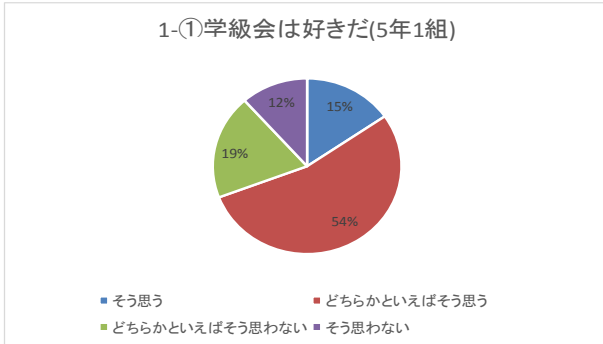
### 1 諸調査の結果から

(1) 児童アンケート（現6年生による比較）

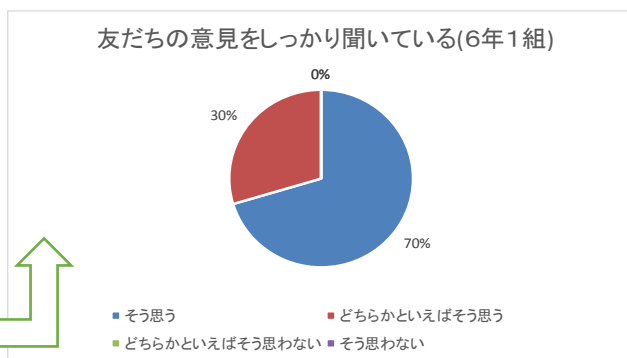
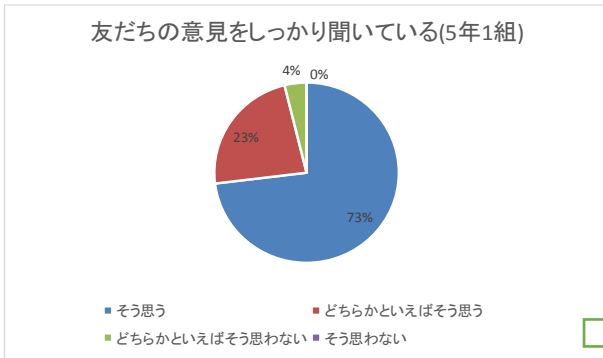
H28年度（5年生時）

H29年度（6年生時）

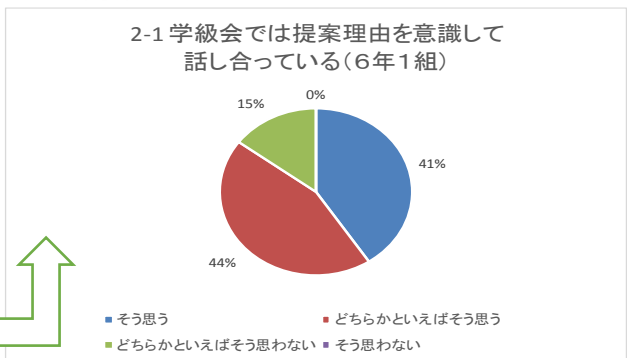
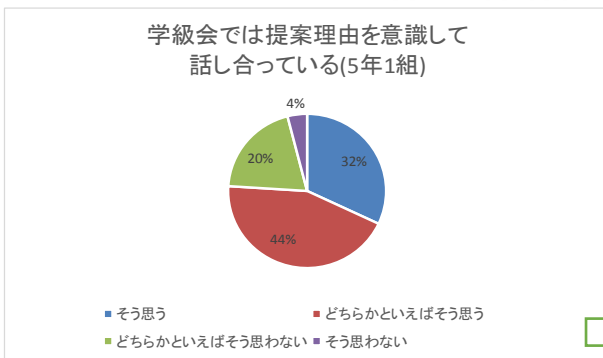
<学級会に関わって>



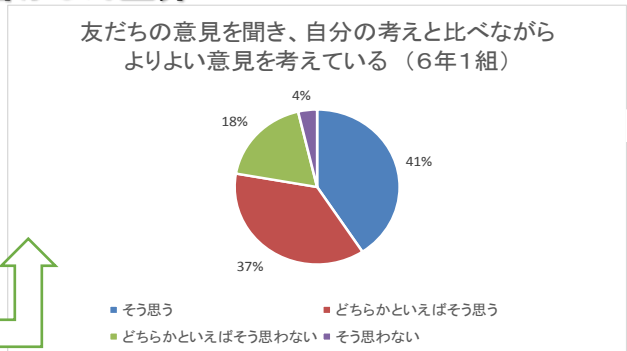
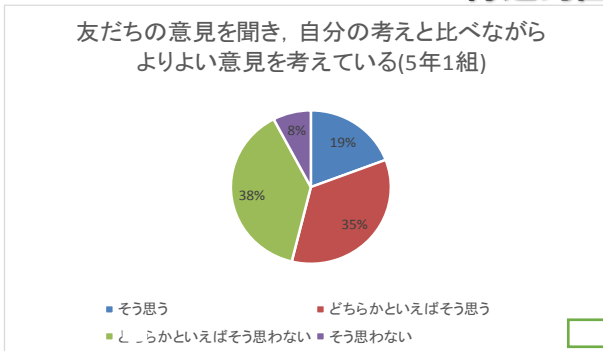
**肯定的回答が9%低下**



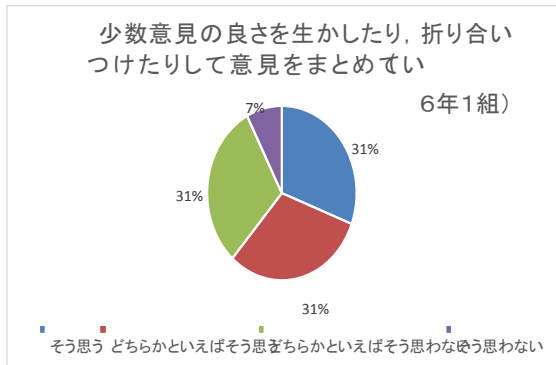
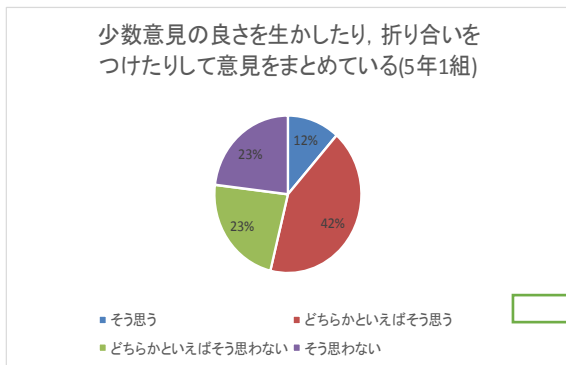
**肯定的回答が4%上昇(100%に！)**



**肯定的回答が9%上昇**

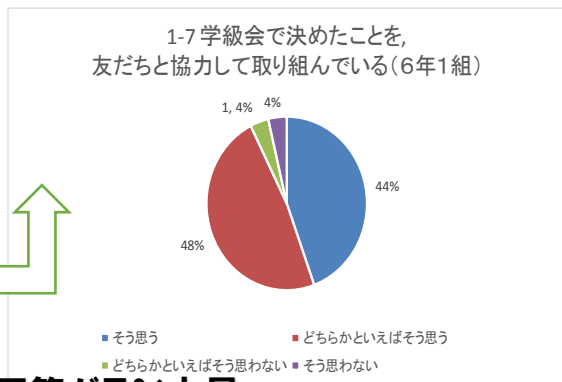
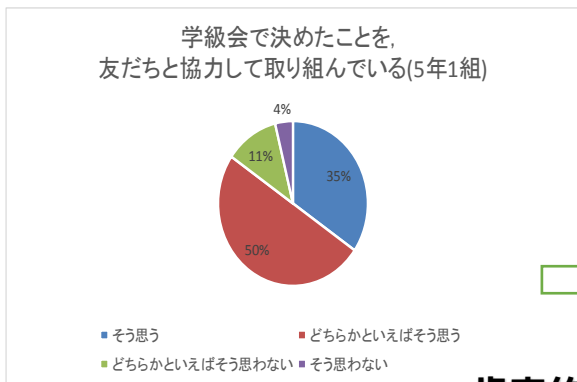


**肯定的回答が24%上昇**

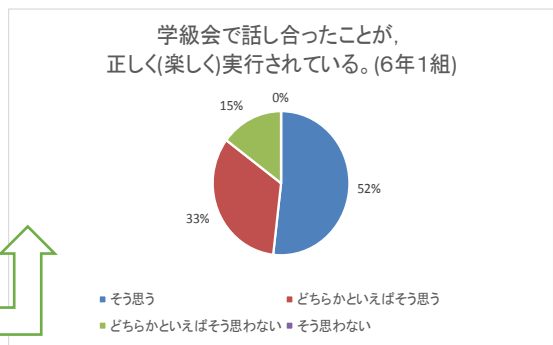
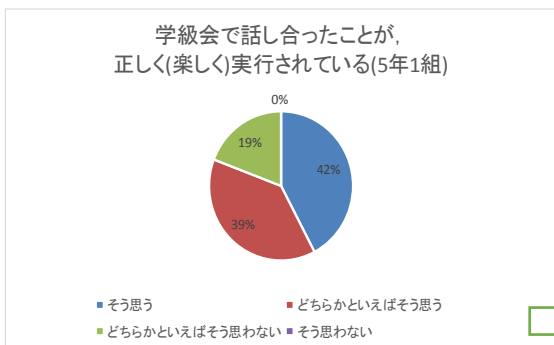


**肯定的回答が8%上昇(「そう思う」は19%上昇！)**

<学級会後の活動に関わって>

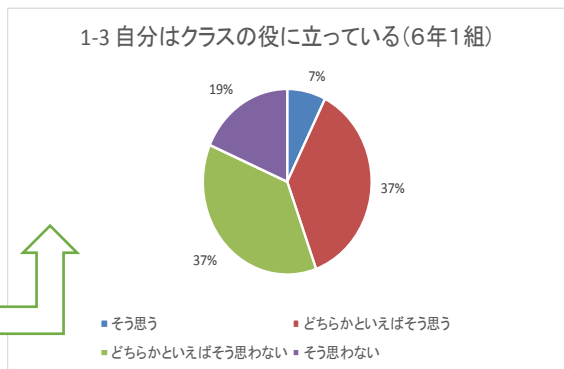
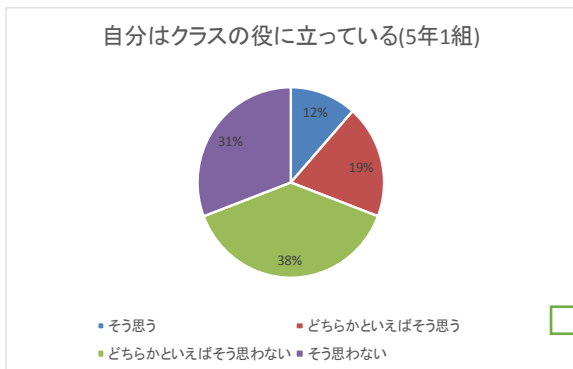


**肯定的回答が7%上昇**



**肯定的回答が4%上昇**

<生活全般に関わって>

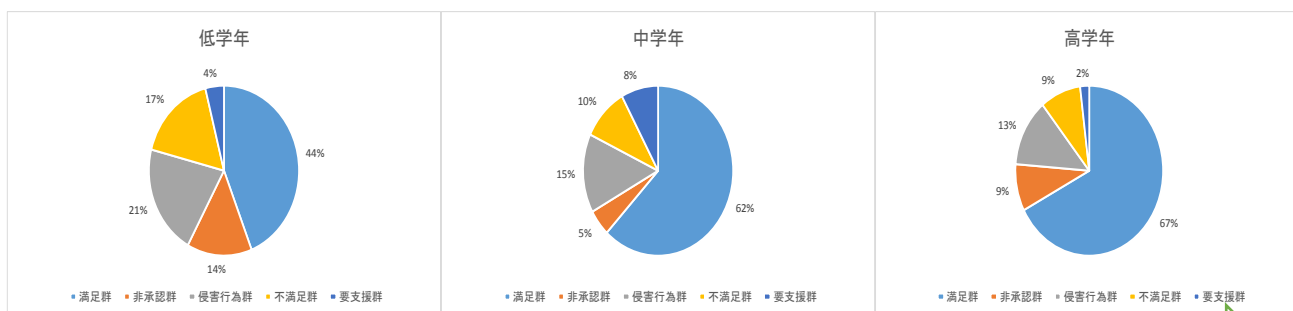


**肯定的回答が13%上昇**



(2) Q-U (楽しい学校生活を送るためのアンケート)

H29 年度 (全校集計)



**学年が上がることに満足群が上昇(6年間で育てる種市小学校)**

※H28年度もH29年度同様に、学年が上がるごとに満足群の割合が上昇している。

<ソーシャルスキル> (現6年生がH28年度に実施したハイパーQUの結果より)

※集団形成に必要な対人関係を営むためのスキル・技術が、児童にどの程度身に付いているかまとめた結果より

	「配慮」のスキル	「かかわり」のスキル
H28 1回目・6月	28.0 (全国比 102)	24.0 (全国比 99)
H28 2回目・10月	29.3 (全国比 107)	26.1 (全国比 108)

・「配慮」のスキル

「友達の気持ちを考えながら話していますか」「友達との約束は守っていますか」など、他者を尊重する姿が、行動レベルで実行されているかを見る度合い。

対人関係の基本的なマナーやルールが守られているかを示すもの。

・「かかわり」のスキル

「みんなのためになることは、自分で見つけて実行していますか」「自分から友達を遊びに

誘っていますか」など、能動的に友人とかかわる姿勢を見る度合い。

「配慮」のスキルを前提に、人とかかわるきっかけや関係の維持、感情交流の形成ができ

## 2 授業後のふりかえりの状況から

話し合い活動，そして実践にあたっては，必ずふりかえりを取り入れた。

ふりかえりは，「めあて」「友だち」「提案理由」「役割」「活動」の5観点について◎○△でふりかえり，「友達は…」「自分は…」「活動に向けて…」の3つの感想を書くようにさせた。

諸調査の結果からもわかるように，ふりかえりを充実させたことで，常に集団の中での自分の役割を理解して，自主的に活動することを意識している児童がふえ（話し合い活動のふりかえりより），成果や課題を確認することで次への意欲につながっている児童もふえている（実践後のふりかえりより）。

そして，児童達もふりかえることの良さを実感している。現3年生 H28年度9月アンケートでは，ふりかえると，「次，がんばろうと思う」，「次にやるのがわかる」，「話し合いや取り組みの課題がわかる」などの肯定的な回答が34%だったのに対し，H29年度6月のアンケートでは，68%まで向上している。

ふりかえりの観点などを改善しながら，継続して取り組んできたことで児童たちはふりかえりの良さを実感することができてきているといえる。

以下は児童たちの「ふりかえり」より抜粋。（矢印の前後は同一の児童）

### 〔学級活動（1）〕

#### ○話し合い

- ・自分は進んで発表できた。→自分は提案理由に沿って発表できた。
- ・友だちがしっかり人の話を聞いていた。→○○くんが意見をゆずっていたので，ぼくもゆずりたいと思った。
- ・友だちは意見をたくさん言っていた。→合体する意見をたくさん出していたので，ぼくも合体権を出せるようにしたいと思った。

#### ○活動後

- ・活動に向けて進んで準備ができた。→○○先生（ALT）も喜んでいし，私も楽しめた。みんなで協力して花束をつくれたから○○先生に「ありがとう」の思いが伝わったと思う。
- ・みんなでべっこうあめの準備や片付け →「楽しくなかった。」と言った人がいた。次はこの言葉が出ないように学級会でみんなが納得するような意見を考えたい。

### 〔学級活動（2）〕

#### ○実践後

- ・今日学習したことだけでなく，復習したり →スポ少の日は，やっぱり少し遅くなってしまった間違えた字などをしっかり練習できてよかった。 →けれど，スポ少の日でも早寝ができたときもありました。「テレビを○分と決めてタイマーをセット」したりして，工夫してもう少しがんばりたい。
- ・毎日全部できたのでよかったです。 →月水金土はいつも10時くらいだったけれど，早く寝ることができた。もう少しがんばれるところは，土曜日寝るのが遅くなってしまったので，テレビは録画して早く寝られるようにしたい。

### 3 成果と課題

#### (1) 学級活動(1)に関する事

##### <成 果>

- ・実践→ふりかえりまでの流れが定着することで、提案理由に沿った意見や、実行までを考えた意見を出すことができるようになってきている。
- ・比べ合いを3つの観点（賛成意見・心配な点・改善策）にしたことと、それを可視化された板書とすることによって、意見を変えたり、折り合いをつけたりしようとする姿勢、相手を否定せず、肯定的な話し合いをしようとする姿勢が見られるようになってきた。
- ・「ふりかえりの充実」についても肯定的な意見が目立った。「次はどうすれば（何をすれば）いいかがわかる。」「次に生かせる。」など、教師側からも同様の意見があがっている。

##### <課 題>

- ・児童アンケート「学級会は好きだ」という項目で、69%から60%になり学級会に対する意識の低下が見られる。  
アンケートで肯定的な回答をした児童の多数は、「話すことが好きだから」と答え、否定的な回答をした児童の多数は、「話すことが苦手だから」と回答していた。好きか嫌いかの質問に対して、児童は「話すこと」に焦点を当てて回答しているということになる。  
研究が進むにつれて、児童の発言が「提案理由に沿っているか」という視点で指導するようになり、児童もそのような意識が高まったからこそ、難しさを感じ、否定的な回答が多くなったと考えられる。今後は、「聞く」ことにも目を向けさせ、価値付けをしていくと、学級会に対する肯定的な意識が高まると考えられる。
- ・時間内で終わらせるために「合意形成」のあり方について、一層の吟味と検討が必要である。

#### (2) 学級活動(2)に関する事

##### <成 果>

- ・授業前の、適切な児童実態理解に基づいた授業構成によって、個々を活かす場面や変容を促す場面などが的確、計画的に行うことができた。
- ・専門性を有するT2の授業参加により、児童は系統的な正しい知識を得て、それに基づきより良い生活を送ろうとする意欲の高まりが見られるようになった。

##### <課 題>

- ・一定の効果はあったが、さらにそれを継続するためには、その後の指導の展開まで計画したり、短期・中期・長期の評価を取り入れた指導計画が必要である。
- ・個に応じた実践化のあり方について、更に精選と吟味が必要である。
- ・地域や保護者との効果的な連携のあり方を一層模索し、取組んでいく必要がある。

#### (3) 学校生活全般に関する事

##### <成 果>

- ・児童アンケート「自分はクラスの役に立っている」という項目やQ-Uの結果からもわかるように、自己肯定感が高まっていること、学校・学級が居場所になっていることは大きな成果といえる。

- ・ 諸調査の結果から、特別活動を充実させることによって、友達との関わりにおける様々なスキルが向上するほか、相手を尊重する姿勢も身につくため自己肯定感が高まることは明らかになった。
- ・ 児童会活動においても、従来の活動にとらわれない多様で柔軟な取組みが目立ってきており、活動が主体的に活発になってきている。特に、縦割り班活動においては上級生と下級生の良好な関わり方が目立ってきた。

## 主な参考文献

- 「小学校学習指導要領 特別活動編」 文部科学省(東洋館出版社)
- 「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」 国立教育政策研究所(文溪堂)
- 「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校特別活動】」 国立教育政策研究所
- 「特別活動の教育技術」 杉田 洋(小学館)
- 「仙台市立大野田小学校」 平成28年度研究紀要
- 「東京都日野市立日野第三小学校」 研究紀要